

体験を通して福祉学ぶ

6月17日、福祉体験学習が男山第三中学校で行われ、1年生が車いすや手話、点字を体験しました。

同学習は、生徒たちに障がいや介助について学んでもらおうと、市社会福祉協議会や市内で活動するボランティア団体と連携して実施されました。



車いすに乗って扉を引く生徒

障がいや介助 理解深める 男山第三中

車いす体験では、生徒たちが要介助者と介助者の役で二人一組となり、砂利道や段差、開き戸などの車いすで生活するのに障壁となるものが設置されたコースに挑戦。開き戸を上手く開けられず苦戦する場面もありましたが、同団体メンバーから「ゆっくり下がりがら扉を引く」などのアドバイスをもらいました。



手話を学ぶ生徒たち

また最後には、「障がい者に対する理解を認め合い・助け合い」をテーマに、障がいのある人による講演も行われました。

兼田翔くん(13)は「下がりがら扉を開けるのが難しかったです。声を掛け合うのが大事だと思いました」と話し、障がいへの理解を深めていました。

八幡市出身のプロ棋士、佐藤康光九段を迎えた「第16回佐藤康光杯争奪将棋大会」が6月15日、市文化センターで開催されました。

佐藤九段が平成10年に第56期名人位に就いたのを記念して始まった同大会も今年で16回目。市内のみならず関東や中国地方からも集まった239人の参加者たちは、段位ごとに4階級に分かれ、盤上で真剣勝負を繰り広げました。

開会式で佐藤九段は「十二分に実力を発揮して、一局でも多く良い将棋をしてください」と話していました。

239人 盤上で真剣勝負



第16回佐藤康光杯争奪将棋大会

佐藤九段と対局する子どもたち

まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。

W杯給食で日本代表を応援



ギリシャ料理の給食を食べる児童たち

サッカーワールドカップ(W杯)の開催に合わせて6月13日、中央小学校でワールドカップ献立の給食が出されました。

市は昨年に発足した「日本サッカーを応援する自治体連盟」に加入しています。そこで、6月から開催されているW杯で日本代表を応援するとともに、世界の料理を知る取り組みの一つとして、対戦国であるコートジボワール、ギリシャ、コロンビアの料理を学校給食用にアレンジして、市内の各小学校の献立にしました。

この日はギリシャの料理で、ナス、ひき肉、ホワイトソースを重ねてオーブンで焼いたグラタン風の「ムサカ」という料理やレンズ豆のスープなどが机に並びました。

児童たちは、先生から国のことや料理の特徴などを聞きながら、おいしそうに給食を口に運んでいました。

曾我爽太くん(10)は「ナスが入っていて、おいしかった」とギリシャの料理を学ぶとともに、「頑張れ日本」と日本代表に声援を送っていました。

雨期に備え合同水防訓練

川口市民運動公園

本格的な雨期を前にした5月31日、消防団、女性防火推進隊、市役所、消防本部による合同の水防訓練を川口市民運動公園で行いました。約150人の参加者は、水害などを想定し、訓練に励みました。

同訓練は、住民の生命、身体および財産を守るため、水防工法の基礎的技術を習得するとともに、水防体制の強化を目的に、毎年実施しています。

参加者たちは7小隊に分かれて配置につき、6小隊が水防工法訓練、女性防火推進隊による1小隊が災害炊き出し訓練を開始

しました。

水防工法訓練では、参加者たちは工法に使用する土のう作りから取り掛かり、お互いに連携しながら、土のう袋に土を詰めていきました。

土のう完成後、工法を実践。漏水個所を中心に土のうを円形に積み上げて水の噴出を防ぐ「釜段工法」や、斜面に木の杭を横一列に打ち込んで固定し、それに沿って土のうを上部に積み上げて斜面の崩れを防ぐ「杭打ち積み土のう工法」など、4種類の工法の実施方法を確認しました。



指導員から工法を教わる市職員たち